

11月25日（火）に畜産科学科の1年生がブロイラー解体実習を行いました。

毎年畜産科学科の1年生が行っているこのブロイラー解体実習は、ブロイラーを雛から育て、と殺・解体を行い、その食肉を食べてレポートにまとめるまでを行う授業になります。普段食べている食肉ができるまでを自ら体験し、改めて畜産業や食肉業のあり方や命をいただいているということを考えるために行っています。

神妙な面持ちの生徒や覚悟を決めた表情の生徒、今にも泣いてしまいそうな表情の生徒など、反応は様々でしたが、無事終わることができました。

生徒たちの感想は以下の通りです。

「自分たちが育てたブロイラーを自分でと殺して解体するという初めての経験で、今回の体験のすべてが印象に残りました。」

「畜産科学科でしかできない体験で、命をいただくことに対する感謝の気持ちが今までよりも強くなりました。この経験は絶対に忘れないものとなりました。」

「最初で最後かもしれない体験で、実際にやらないとわからないこともあったし、いただきますの意味が良くわかりました。」

生産者や消費者という括りにかかわらず、普段命をいただいているということを忘れずに、感謝の気持ちをもってこれからも勉学に励んでいきましょう。



と殺前のブロイラーと生徒



解体中



ささみともも肉を持つ生徒